中部経済新聞
THE MID-JAPAN ECONOMIST
2010年（平成22年）
3／9
火曜日（日刊）
⑨ 第21321号
© 中部経済新聞社2010

混入した動物の毛 簡単識別

県食品工技センターの技術使用

愛知県産業技術研究所食品工業技術センター（名古屋市西区）が特許出願中の技術を使った製品の販売をバイオ関連企業が始めた。製品はベックス（本社東京都）の「動物の識別用プライマーキット」。今年1月から販売を始めた。識別キット（道具一式）は動物の種類ごとに1セット。価格は各セット420円（税込）。

ベックスの「動物の識別用プライマーキット」

製造や流通過程で食品に混入しやすい動物の毛の種類を簡単に識別する製品。ブタやネズミなど12種類の判定ができ、混入事故の迅速な原因究明につながる。食品メーカーや流通業者向けに年500セットの販売を目指す。

東京のバイオ関連企業 ベックスがキット商品化

混入事故の際、動物の種類を識別できればどの段階で混入したか特定しやすい。動物毛のDNA（遺伝子）検査をキット化し、4時間半程度で判別可能にした。混入した毛の写真解析や、数週間を要する本格的な遺伝子解析などと比べ、効率的に検査ができる。判定できるのは家畜のニワトリやウマ、ウシ、ヒツジ、ヤギ、ペットのウサギやイヌ、ネコ、衛生害獣のハツカネズミやクマネズミ、ドブネズミ。

今月10日に同センターで開催する食品技術研究会で発表する。